



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

## 目次

ETD2007 国際シンポジウム報告	1
NII 学術ポータル担当者研修 —機関リポジトリ構築— (報告)	3
パスファインダー —今と未来—	5
歴史 GIS 国際会議を終えて	8
改修移転した情報・言語合同図書館の ご案内	9
本学教員著作物の寄贈リスト・自著紹介	10
利用者から見た図書館	11

## ETD2007 国際シンポジウム報告

山本哲也

平成19年6月13日から16日にかけてスウェーデンのウプサラ市で開催されたETD2007という国際シンポジウムに参加してきました。また、この機会を利用して北欧の近隣の大学図書館も訪問してきました。訪問したのはストックホルム市にあるストックホルム大学と、フィンランドのオウル大学です。これらについていくつかの報告をします。

## ■ ETD2007

ETD2007のETDとはElectronic Theses and Dissertations(電子学位論文)のことで、このあり方について技術面や制度面など様々な観点から検討を行うシンポジウムを開催して、今回で10回目を数えます。名古屋大学からの参加は、前回のカナダに続いて2度目です。会場となったウプサラ大学は、500年以上の歴史を持つ北欧最古の大学のひとつで、最近では天皇皇后両陛下がリンネ生誕300年記念祭に参加された際に訪問されたことで話題になりました。

会の中では、近年その存在を確立してきている機関リポジトリとの関係について多くの議論がなされました。すでにETDについて多くの成果を挙げているアメリカやヨーロッパの各国は、ETDへのアクセスをさらに自由に多様なものにするための各種取り組みや機関リポジ

トリ用ソフトウェアの改良について発表し、また、比較的新しくETDに取り組みつつある国(インド、イタリア、リトアニア、ラトヴィア、日本等)はそれぞれの国の事情と取り組み状況を報告しました。全体では、合計21ヶ国からのスピーカーが発表を行いました。

さらにポスターセッションにおいては、ギリシャやアルゼンチンなどにおける取り組みも知ることができました。各国の図書館員がいろいろな工夫に取り組んでいるのだということがわかり、よい刺激を受けることができたと感じています。

日本からは、国立情報学研究所(NII)のチームが、わが国の学位論文へのアクセスが一般に難しいといわれていることの説明とその理由の分析を行い、また、その解決策のひとつとして行われている「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」の紹介を行いました。このNIIの支援を受けて発足した機関リポジトリのひとつである名古屋大学学術機関リポジトリ「NAGOYA Repository」は、発表当時300点以上の学位論文を紙資料のスキャンなどの手段で登録しており、毎月多数のアクセスを得ています。日本チームの発表がこの点に触れた際は、名古屋大学の事例として、筆者も補足的な説明を行いました。

これからも日本で学位論文などのオンライ

ン化がいつそう進み、より利用者にとって便利になっていくでしょう。その時あるべき姿を見定めておくためにも、わが国からETDへの継続的な参加をすべきだと思います。次回はイギリスのアバディーン市で行われる予定だそうです。

### ■ストックホルム大学図書館

ストックホルム大学は市街から適度に離れた場所に立地しており、緑豊かなキャンパスを持っています。地下鉄で行くのがもっとも便利そうです。



写真1 スtockホルム大学構内

ETDの開かれる前日にストックホルム大学に寄り、図書館の中で電子リソースを扱っている係を訪ねて、主に機関リポジトリに関する取り組みについてインタビューや見学をさせてもらいました。スウェーデンの主な大学図書館で共通のソフトウェアを使っているという点が注目になりました。DiVAという名称で、ウプサラ大学の図書館で開発し、各大学図書館に配布しているものです。共通のソフトウェアを使うことで組織間のデータの流通が容易に統一できるという利点があるようです。DiVAの開発者のひとりであるウエ氏にはETD2007で会って話をすることができました。DiVAの機能を強化したDiVA2を目下リリース準備中だそうです。図書館訪問中も、ETDに参加しているときも、世界の多くの図書館にはちゃんとIT技術者がいるものなのだなあという感想を持ちました。「あなたはライブラリアンか、エンジニアか」と聞くと、結構な割合でエンジニアだと答えるのです。組織内で技術者の養成プ

ログラムがあるのかと聞いてみたところ、そういうものはなく、最初から技術者が技術者として雇われているということのようでした。

なお、ストックホルム大学機関リポジトリは、学位論文を主なコンテンツとして扱っているようです。

### ■オウル大学図書館

ヘルシンキから飛行機で北に1時間、バルト海の最も奥に位置するオウル市にあるオウル大学の図書館を訪ねました。北極圏に近い町ですが、6月中旬はとても気候が穏やかで、ワイシャツ1枚でも過ごすことができます。最近ではエアギターの国際大会が開かれることで有名です。



写真2 オウル大学図書館

オウル大学は市街地からやや離れたところであり、バスなどで数十分といったところです。図書館の中でもIT部門のチーフにあたる人にインタビューができ、興味深い話をたくさん聞くことができました。

機関リポジトリにあたるソフトウェアはこの人が一から開発した(!)ものを使っていました。ただ引継ぎ上の悩みもあり、DSpaceなどの広く使われているソフトウェアも試してみたりなど、隆々と仕事に取り組んでいました。

大学図書館の話からは少し外れますが、オウル市内では、PanOULUと呼ばれる無料の公衆無線LANが張り巡らされており、たとえば空港内でも手持ちのノートPCが問題なくネットにつながりました。福祉国家として知られるフィンランドがインターネットを扱うとこういう形になるものかと驚きました。

## ■まとめ

出張旅行中は、シンポジウムへの参加も含めてすべて英語でことが足りました。大学図書館への訪問は単身です。流暢に会話をしたり講演を理解することができたとは到底言えませんが、行く先の人達はみな本当に親切で、色々な助けを得ながら当初の目的をすべて果たすことができました。出張の準備、訪問の予約、移動や宿泊などと、すべてについて誰かの助けがな

ければ何もうまくいかなかったことでしょう。これに報いるためにも、日本の大学図書館などを訪ねてくる海外の仲間がいたら、最大限の親切をもって迎えたいものです。個人的には、今回の出張の最大の成果はこのことを肌で知ったということかも知れません。

(やまもと・てつや

情報連携基盤センター学術電子情報掛)

XX

## NII 学術ポータル担当者研修 －機関リポジトリ構築－（報告）

大 塩 和 彦

### はじめに：

「今やリポジトリのないような図書館は大学図書館とはいえない。」

いかがでしょうか？平成 19 年度学術ポータル担当者研修の閉講式において、（私の記憶では）本学附属図書館長の伊藤先生からこのようなお言葉がありました。大学図書館の行く先にとって、いかに学術機関リポジトリが欠かせないものであるかということです。

ここでは、本研修（国立情報学研究所主催、名古屋大学附属図書館共催、7/11-13）の報告として、一受講者の視点から見、聞き、考え、感じたことを紹介いたします<sup>1)</sup>。

### コンテンツ：

本研修は「ポータル」と銘打たれているものの、実際には「機関リポジトリ」を主としたもので、オフィシャル文書の到達目標にも「機関リポジトリの最新動向を知り、所属機関における運用方針の策定、企画・立案ができるようになる。」と示されています。

カリキュラムを大雑把にまとめると、まず初日、機関リポジトリの概論・企画・運用をテーマに 7 講義＋パネルディスカッションが行われ、2 日目は、デジタルコンテンツを蓄積する機関リポジトリにとって不可避の問題である著作権についての講義および演習を中心に、そし

て最終日、研修の総仕上げに各機関によるリポジトリ構築に係る企画発表、という流れでした。

講師の方々はみな実際にリポジトリの立ち上げから運用に携わった気鋭の現場担当者で、3 日間を通じ、実務上の情報はもちろん、様々なご苦労をも交えた興味深いお話を聞くことができました。とりわけ次の各ポイントは、リポジトリを確固たるものとする観点から、立ち上げ時の検討課題として挙げられました。既に公開から 1 年半を経過した本学の NAGOYA Repository においては、これらの課題はある程度整理されてきたといえるでしょうか。

- 学内合意の形成による大学の事業への位置付け
  - システム構築への取り組み方
  - 業務の体制づくり
- 加えて、運用に関わるトピックとして印象的であったのは、次の 2 つです。こちらは図書館のコレクションおよびその活用という部類の、終着点のない課題です。
- リポジトリのコンテンツを、どのような方針でいかに充実させるか
  - オーバーレイジャーナル<sup>2)</sup>をはじめとするリポジトリの近未来へどう対応するか

3 日目の企画発表においては、全国から集った各機関が実情に応じた様々なプレゼンター

ションを行いました。講師陣からは「いわゆる業界用語はNG!」といった、経験を踏まえた厳しくも的確なご指摘をいただきました。本学の発表は、「NAGOYA Repository への学位論文登録について」と題するもので、医学部保健学科をモデルに博士論文の登録について制度化を提案するというものになりましたが、症例などのプライバシーを含む論文の取り扱いに注意すべきだといったアドバイスもありました。

#### おわりに：

「今やリポジトリのないような図書館は大学図書館とはいえない。」

ああ、そうかなあ…とより実感が持てるようになったのは、私自身の本研修での収穫です。学内の学術成果をデジタルで収集・整理・提供・保存するリポジトリの運用を図書館が担いつつある現状にはそれなりの必然性があり、各大学

図書館がその先にもう少し新しい自身の姿を見出そうとしているようでもあります。ただいつも付いてまわるのは、リポジトリで「じゃあ何が見られるの??」という、やっぱり図書館にお馴染みの、しかし答えがいのある問いかけらしいですが。

-----  
1) 研修のカリキュラムおよび講義資料／成果物はNII教育研修事業のサイト

<http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/result.html>にて公開。

2) リポジトリに含まれる論文を査読し、表紙や目次等からリンクすることで形成されるオンラインジャーナル。

(おおしお・かずひこ 情報・言語合同図書室)

## 平成 19 年度の NAGOYA Repository 事業についての紹介

名古屋大学は、国立情報学研究所の「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」の委託を受け、学術機関リポジトリ NAGOYA Repository の構築と開発を進めています。3年目の今年度は、以下の事業を中心に進めています。研究成果の収集は研究者の協力が不可欠です。引き続き NAGOYA Repository 構築のためご協力をお願いします。

### 1. リポジトリ構築

- ・ **研究者協力コミュニティの拡大・強化**：研究成果の登録に協力する研究者コミュニティを活性化させ、参加者を更に増加するよう論文のダウンロード件数を通知するなどの働きかけをしています。
- ・ **学位論文登録制度の推進**：情報科学研究科、工学研究科では、18年度から学位論文提出時のリポジトリ登録制度が始まっています。他の研究科でも関係会議で説明等をして参加を呼びかけています。
- ・ **部局出版物の電子化・登録促進**：編集委員会等と協議し、許諾手続きを整備するなど、リポジトリを通じた学内刊行物の蓄積・発信を進めています。
- ・ **地域連携事業**：東海地区の国立大学等の学術機関リポジトリ実務担当者会議を開催し、情報の共有化を図っています。

### 2. 研究開発

- ・ 異なるシステム間の著者名リンクを可能にする「著者名(典拠)ディレクトリ」の開発を行っています。
- ・ 簡易なルール記述でメタデータ等を形式変換できるプログラムの開発を行っています。

(情報システム課)

## パスファインダー — 今と未来 —

### 1. パスファインダーとは

パスファインダー (Pathfinder) は「情報への道しるべ」と呼ばれ、マサチューセッツ工科大学図書館で1960年代に考案されたもので、当初は特定の主題に関する資料の探し方をまとめた一枚の印刷物でした。現在は紙媒体の他Web上からでも利用できるようになりました。利用者はこれを使い、必要な情報を入手して主体的な学習や情報活用能力を身につけることができます。パスファインダーは図書館情報リテラシー教育支援のひとつです。

本学では、現在次の5分野にわけてパスファインダーが作成・提供されています。

現代社会を考える	10件
国際社会に生きる	11件
ものごとの発展・歴史を知る	4件
環境・自然・科学技術について考える	8件
世界の国や地域について調べる	23件

### 2. その有効性

パスファインダーは次のようなメリットがあります。

#### 【利用者にとっては】

- (1) パスファインダーに示された方法を試すことによって自分の力で必要な資料や情報を探しだすことができます。
- (2) 1つのパスファインダーを利用することによって図書館での情報探索法を身につけることができます。
- (3) 図書館が提供する様々な資料、紙媒体だけでなく電子ジャーナル、E-book、データベース等を利用する機会が増えることで図書館情報リテラシーを高めることとなります。

#### 【図書館にとっては】

- (1) 特定の主題について資料を探す潜在的な利用者に対して情報を提供することができます。
- (2) パスファインダー作成時に蔵書の見直しの機会を得ることができます。
- (3) 図書館職員がパスファインダーを作成することにより、特定主題への的確な情報提

供方法を考える機会となりスキルアップにつながります。

### 3. 入手するには

中央図書館では3階の東階段前のフロアに現在58種類の紙のパスファインダーを配置しており、利用者が自由に持ち帰ることができるようになっています。また、図書館Websiteからもパスファインダーを入手することもできます。こちらは掲載された情報のリンク先に簡単にアクセスできるのでとても便利です。

図書館ホームページ > パスファインダー  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/guide/literacy/index.html>

### 4. 作成の経緯

附属図書館ではこのパスファインダーを平成17年度から提供しています。電子図書館推進委員会の下に平成16年度から、教員と図書館職員で構成される図書館情報リテラシー・ワーキンググループができ、その活動項目のひとつとしてとりあげられたのがパスファインダーです。テーマは主として授業を担当する先生方からいただき、入門書やキーワードについて相談の上、メンバーである図書館職員が中心となり作成しています。最終チェックは先生方をお願いして、より使いやすい有効な情報を提供することを目標にしています。平成19年度は共通教育で後期に開講される基礎セミナーBを担当する先生方を中心にパスファインダーの作成依頼を受け付けました。

### 5. 利用実績と評価

これまでの利用数は、表1のようになっており、パスファインダーについて関心の高さを示していますが、一方で実際に利用した皆さんの意見を聞く機会を得ていません。パスファインダーが効果的に利用されているかどうかについては調査されておらず、これからのパスファインダーの方向性をめぐってはいろいろな意見があると考えられます。そのため今年度後期授業でパスファインダーを利用した先生方や学生に

表1. 本学のパスファインダー利用状況 (2007年4月～9月)

パスファインダー名	館内スタン 配布枚数	ダウンロード 件数	パスファインダー名	館内スタン 配布枚数	ダウンロード 件数
現代社会を考える			世界の国や地域について調べる		
・CSRとは?	56	461	・インドネシア (図書編)	33	438
・NGO	49	231	・インドネシア (雑誌記事編)		383
・エコツーリズム	47	350	・カンボジア王国 (図書編)	29	212
・機能的食品を考える	27	387	・カンボジア王国 (雑誌記事編)		391
・教科書問題を調べる	58	479	・シンガポール共和国	28	514
・ジェンダーって何?	52	750	・スリランカ	33	396
・「循環型社会」	59	267	・タイ (図書編)	25	342
・大学でどう学ぶか	99	412	・タイ (雑誌記事)		254
・人の心を探る	77	256	・チベット	22	353
・まちづくり・地域振興	73	266	・ネパール	26	408
国際社会に生きる			・パキスタン・イスラム共和国	16	222
・ODAって何だろう?	54	321	・バングラデシュ人民共和国	22	339
・エスニック・メディア	39	227	・東チモール	12	217
・エビの養殖	24	280	・フィリピン (図書編)	19	324
・危機言語	47	276	・フィリピン (雑誌記事編)		320
・世界銀行	38	307	・ブータン王国	22	352
・難民	44	250	・ブラジル連邦共和国	17	296
・貧困	60	287	・ベトナム (図書編)	22	363
・平和構築	52	196	・ベトナム (雑誌記事編)		365
・民族と衣装	46	381	・マダガスカル	11	346
環境・自然について考える			・モンゴル国 (図書編)	30	295
・遺伝子組換え食品	47	506	・モンゴル国 (雑誌記事編)		374
・生物の多様性	67	303	・ラオス	17	347
・地震予知は可能か?	45	199			
・地球の内部構造	38	348	総計	48種類	1,656
・マングローブ	28	270			16,137
・バイオマス資源	56	276			

は、講義等で利用した際にパスファインダーが助けになったかどうかというような評価をして頂くことを計画しています。

- ・カーボンナノチューブを中心に
- ・タイの食文化
- ・タイの文化：映画・音楽

【後期に新たに作成されたパスファインダー】

- ・多文化共生社会
- ・政治と宗教 政治思想史の基本問題
- ・人の移動：日本人移民
- ・日本人論の系譜
- ・日本論の系譜
- ・医療と材料の関わりを考える
- ・医学の歴史を知ろう
- ・ナノテクノロジーで地球環境問題に取り組

6. パスファインダーの未来

一方、附属図書館の研究開発室では、未来のパスファインダー計画が進行中です。これは平成19年度赤崎記念研究奨励事業のひとつとして、「多様な情報環境においてユーザーを支援するパスファインダー2.0の開発とその高度利用」というテーマで、パスファインダーシステムの試行版を構築・公開するものです(図1)。

このシステムは、パスファインダーを教員、

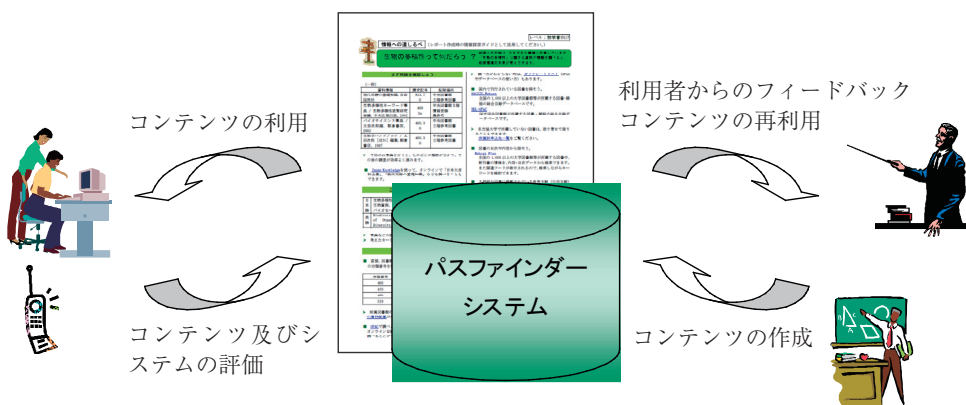


図1 未来のパスファインダー計画

図書館職員、学生が協同で作成・更新するためのコンテンツ協同構築・支援システムで、その特徴は、名古屋大学以外でも利用できるオープンな仕様とし、コンテンツ管理をおこないます。

情報源に関する情報を集めて他のユーザーと共有するソーシャルブックマーク的な機能を持ったシステムを提供する予定です。詳細については別の機会に報告いたします。

レベル：初學者向け

**情報への道しるべ** (レポート作成時の情報探索ガイドとして活用してください。)

**機能性食品を考える**

「医食同源」から「機能性食品」へ、健康への意識が高まる中、有用な栄養素を付加した「機能性食品」が徐々に開発されている。その必要性と有効性について考えてみよう。

このキーワード・関連語で探そう

日本語	機能性食品 機能性飲料 食品 機能 素材 成分 保健機能食品 特定保健用食品 (トクホ) 栄養機能食品 健康食品 栄養補助食品 サプリメント
英語	functional foods nutraceutical foods dietary supplements

■ 国内で刊行されている図書を探そう。

**Webcat Plus (連想検索)**  
検索キーワードから関連性の高い単語を抽出し それを含む図書をもれなく探し出す検索方法です。

**NDL-OPAC**  
国立国会図書館が所蔵する図書・雑誌の総目録データベースです。

▶ 名古屋大学で所蔵していない図書は、取り寄せて借りることもできます。 [所属別申込先一覧](#)をご覧ください。

■ 図書の目次や内容から探す。

**ブックコンテンツ・データベース**  
東京大学が所蔵する本の「目次情報」や「内容情報(要旨・帯・カバーからの情報)」で検索できます。

**新書マップ**  
テーマに関連した新書・選書をキーワードや文で探すことができます。それぞれの本の内容紹介と目次情報を見ることができ、連想検索によって関連テーマの本を探すことも簡単です。

■ 入門的な図書に掲載されている参考文献(引用文献)からも関連図書を探そう。

(名古屋大学にある図書の例)

資料情報	請求記号	所蔵
何を食べたらよいのか：氾濫する情報にふりまわされないために / 日本農芸化学会編。学会出版センター、1999.5	498.5 N	中央館(3階) 情報・言語
健康食品ノート / 瀬川至朗著。岩波書店、2002.2	498.5 Se	中央館(3階新書) 農学生開架
食と健康の文化史：薬になる食べもの話 / 井上勝六著。丸善、2000.5	383.8 I	中央館(3階)
機能性食品の驚異：病氣・肥満・老化を防ぐ / 石倉俊治著。講談社、1990.2	498.5 3 I	中央館(3階新書)
食品機能学への招待：機能性食品とその効能 / 須見洋行著。三共出版、1995.6	498.5 1 Su	農学生開架

▶ サプリメントデータベース(日本サプリメント協会) [http://www.j-sup.com/cat\\_index/database.html](http://www.j-sup.com/cat_index/database.html) では、素材や症状から調べることができます。

図書を探そう

■ 直接、図書館の棚に行き探す場合は、次の関連分野の分類番号を探してみよう。

分類番号	分野
498.5	食品、栄養、化学衛生学
498.51	食品学
498.53	食品化学
498.55	栄養学、栄養化学
498.58	治療栄養学、保健食、食餌療法

■ 名古屋大学にある図書をOPACで探す。  
オンライン目録(OPAC)を使って、名古屋大学の図書と雑誌を探することができます。

▶ 調べ方がわからない時は、[ガイドシートリスト](#)(OPACやデータベースの使い方)もあります。

裏

・日本健康・栄養食品協会  
<http://www.jhnfa.org/index.htm>  
各種の「健康食品」とその表示制度について解説。

・健康食品ナビ(東京都)  
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/supply/index.html>  
いわゆる「健康食品」に関するサイト。健康被害の注意情報や安全に利用するためのポイントなど。

**実物を見に行こう!**

■ **胡麻の郷** 不破郡関ヶ原町大字玉 1565-10  
ゴマの歴史から効用・魅力などを様々な角度から紹介する健康テーマ館。隣接するゴマ工場の見学もできる(要予約)。  
開館時間/10:00~17:00  
休館日/年中無休(冬期間積雪時休館日有り)

■ **ヘルシーハウス山岡** 恵那郡山岡町馬場山田 3058-4  
「寒天健康学校」と称して様々な「食の健康」を学べる体験・見学コースを用意。料理体験・工場見学は有料・要予約。  
開館時間/9:00~17:00  
休館日/第2・第4月曜日

**機能性素材について調べてみよう**

資料情報	請求記号	所蔵
茶の科学 / 村松敬一郎編。朝倉書店、1991.3(シリーズ《食品の科学》)	619.8 Mu	中央館(3階)
大豆の科学 / 山内文男、大久保一良編。朝倉書店、1992.6(シリーズ《食品の科学》)	619.6 D	農学生開架
食物繊維の科学 / 辻啓介、森文平編。朝倉書店、1997.9(食品成分シリーズ)	498.55 Sy	農学生開架
カフェインの科学：コーヒー、茶、チョコレートの薬理作用 / 栗原久著。学会出版センター、2004.4	619.8 Ku	農学生開架
発酵乳の科学：乳酸菌の機能と保健効果 / 細野明義編。アイ・ケイコーポレーション、2002.11	465.8 H	中央館(3階)
ハーブの科学 / 陽川昌範著。養賢堂、1998.1	617.6 H	農学生開架

**さらに専門的な本を読んでみよう**

資料情報	請求記号	所蔵
機能性食品の研究 / 荒井綜一監修。学会出版センター、1995.11	498.51 Ki	中央館(3階) 農学生開架
食品の機能化学 / 五十嵐脩、宮澤陽夫共著。弘学出版、2002.3	498.53 I	中央館(3階)

▶ この「情報への道しるべ」についてのご意見・ご質問は、生命農学図書室までご連絡ください。

30-September-2006

2

表

<http://www.dtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/index-kousei.html#kou39>  
補助食品等からビタミン・ミネラルを摂取している者の割合のデータあり。

**インターネットで調べよう**

・「健康食品」の安全性・有効性情報(国立健康・栄養研究所)  
<http://hfnet.nih.go.jp/>  
科学的根拠に基づいた「健康食品」に関する情報を提供。「特定保健用食品」の商品一覧、用語集もあり。

図2 バスファインダー(縮小サンプル:A4両面刷から)

(情報サービス課参考調査掛)

## 歴史 GIS 国際会議を終えて

溝口 常俊

名古屋大学附属図書館と環境学研究科の魅力ある大学院教育イニシアティブおよび GIS (地理情報システム) 学会中部支部主催の「Historical Maps and GIS」という国際研究集会が 2007 年 8 月 23、24 日の 2 日間、名古屋大学文系総合館カンファレンスホールで開催された。そのセッションと発表者名は以下の通りである。

### 8 月 23 日 (木) : WORKSHOP DAY 1

#### Introduction / Method of GIS

- ① OKUNUKI, K. (名古屋大学)
- ② MORITA, M. (名古屋大学、院)
- ③ HANASHIMA, M. (地域開発研究所)
- ④ KAWAGUCHI, H. (手塚山大学)
- ⑤ D. J. Peuquet (Pennsylvania State Univ., USA)
- ⑥ Yano, K. (立命館大学)

#### Theme 1. China Historical GIS

- ⑦ P. K. Bol (Harvard Univ., USA)
- ⑧ G. W. Skinner (UC-Davis, USA)
- ⑨ M. Zhimin (Fudan Univ., China)
- ⑩ W. Lavelly (Univ. of Washington, USA)

### 8 月 24 日 (金) : WORKSHOP DAY 2

#### Theme 2. Japan Historical GIS

- ⑪ P. C. Brown (Ohio State Univ., USA)
- ⑫ G. W. Skinner (UC-Davis, USA)
- ⑬ MIZOGUCHI, T. (名古屋大学)
- ⑭ D. Sprague (農環研)
- ⑮ TANI, K. (埼玉大学)

#### Theme 3. Europe Historical GIS

- ⑯ A. Pühringer (Österreichischer Städteatlas, Vienna, Austria)
- ⑰ Holger Th. (Hessisches Landesamt für geschichtliche Landeskunde, Marburg, Germany).
- ⑱ I. Gregory (Lancaster Univ., UK)

#### Theme 4. South Asia Historical GIS

- ⑲ K.M. Maniruzzaman (Bangladesh Univ. of Engineering and Technology, Bangladesh)
- ⑳ M. T. Hussain (Accenture Services Pvt. Limited, India)

以上のように、歴史 GIS 研究の第一人者である研究者を海外から 12 人招待し、日本側の研究者 7 名とともに GIS の理論的研究並びに中

国、日本、ヨーロッパ、南アジアでの最新の成果を報告し意見交換を行った (写真 1)。司会は名古屋大学のイスラム・カーン教授が尽力され、解説役として香川大学の村山聡教授が歴史資料を扱う際の留意点について述べられた。また初日のセミナー終了後に名古屋大学附属図書館に場所を移し図書館の歴史資料・絵図の GIS 化とその公開の状況が披露された。

この会議は次の 4 点において大きな成果をあげることが出来た。

第一に、世界各国の歴史 GIS 研究者を一堂に会して議論できたことである。この 20 年間歴史的に GIS を活用しようという動きが各国で芽生えてきた。その中でアメリカのハーバード大学、UC-Davis を中心とした中国の GIS 研究、国家的事業としてセンサス資料の地図化を試みてきたイギリスでの研究はつとに知られるところであったが、ドイツ、オーストリア、インド、バングラデシュ、それに日本における歴史 GIS 研究は世界の舞台では登場することがなかった。それが、今回の会議に於いてお互いの存在を認め合い、刺激を受け合うことができた。

評価された日本の研究者のユニークな点をいくつかあげると、①道路距離を用いてのネットワークツールの開発、②空間分析に時間を取り入れ可視化に成功した「暦象」ツールの開発、③古文書資料の解読ソフトを開発し、家族構成員の移動を地図化したこと、④古代から現在までの歴史事象を詳細に図像化しヴァーチャルな世界を再現させたこと、さらには⑤豊富な地誌資料の GIS 化と地域解釈、等である。

第二に、それぞれの研究者の報告をとおして、今後の歴史 GIS 研究で問題にすべき課題が見つかった。その一つは「スケール」と「境界」である。イギリスと日本では「村境」を引くことが出来るが、中国では村の境界線は引けないという。「方志」という地誌は県単位の情報で、ミクロな村について、日英と共通のスケールで議論できないという問題点が浮かび上がった。さらに、村境を引くことが出来る日本とイギリ



スにおいても、村境は、合併などの理由により絶えず変化する。こうした時間的変化に最新の注意を払い、GIS マップの基礎となるポリゴン(領域)を正確に書く必要があることが確認された。

第三に、名古屋大学で附属図書館が所蔵する高木家文書の古絵図を GIS 化し公開している状況を発表した。高木家文書は、江戸時代の木曾三川流域治水史料を中心とするわが国有数の歴史史料であり、GIS による洪水ハザードマップ等、今日の災害情報や、河川改修図、皇国地誌データ等を用いた空間分析により、地域特性や環境変遷などの情報を視覚化し、教育・研究活用を図っている。この研究集会のオープンライブラリーにおいて、こうした事例も含めた歴史地図への GIS の応用、歴史情報資源の高度な活用を推進していくことの重要性をアピールできたものと思われる。

第四に、この会議が研究者のみならず若い大学院生・学部生に大いなる刺激を与えた点である。当初この会議は 10 人程度の研究者でのクローズドなものを想定し準備を始めたが、報告者を募る際にその数が倍に増え、世界のトップランナーからの参加表明も得られることになって、急遽会議をオープンにし、傍聴席を設けた。参加した一院生からの声をここで紹介しておきたい。

「先日の HGIS 会議は、とても知的刺激に満ちあふれていて、多くのことを学ぶことができました。聴講させていただき、ありがとうございます

いました。歴史 GIS に限らず、時空間情報を扱う研究に関してはまだまだ発展途上であり、様々なことができる可能性があるという『確信』が今回の自分にとっての一番の収穫かもしれません。… Peuquet 先生の STNexus は、是非研究で使ってみたいソフトウェアだと思いました。時空間情報を扱うには様々な可視化を行なって、色々な視点から確認することが必要であると常々感じます。また、Mohammed 先生の分散 GIS におけるセキュリティーの話ですが、HGIS を構築していく際、どうしてもデータベースを分散型にして複数人・グループで編集する必要があると思います。その時にセキュリティーの確保は必須となるでしょう。」

こうした礼状が複数の院生・学生から寄せられたことが今回の国際会議の最大の成果であったかもしれない。



写真1 スキナー教授の講演風景

(みぞぐち・つねとし 環境学研究科教授)

XX

## 改修移転した情報・言語合同図書室のご案内

石田 康 博

情報・言語合同図書室(以下情言図書室と略す)は、全学教育棟に位置し、情報文化学部、情報科学研究科、環境学研究科、国際言語文化研究科、文学研究科日本文化学講座の合同の図書室です。もとは教養部の図書室でしたが、教養部改革から情報文化学部の創設、大学院重点化に伴う独立大学院の設立など、本学の組織改変の荒波の中、それに伴う矛盾を一手に受けてきています。

今回、昨年(2006年)からの全学教育棟の改修工事に伴い、移転、新装開室しました。

情言図書室は、文理融合型の学部、研究科を複数利用対象としているためと、嘗ての教養部時代の蔵書を引き継いでいるために、ほぼ全分野の主題の資料を所蔵しています。一部局図書室で全分野の資料を持つのは、どうしてもスペース的に無理があります。しかも、今回の移転で、床面積が 884 m<sup>2</sup> から 642 m<sup>2</sup> に減少したの

で、収蔵可能冊数を少しでも多くするために、1階に新規購入する書架は全て集密書架とし、既設の書架より1段高い書架にしました(身長185cm以上ないと最上段に手が届きません)。それでも、図書室全体の収容力が約15%減少して、約14万冊の収容能力になりました。

場所は、中棟の2-3階から南棟の一番東(教育学部側)の1-2階へ移りました。既に先に新装開店している文科系学部の図書室が1フロアの構造であるのに対して、情言図書室は2フロア構造で、1階部分は書庫、2階は開架書架、閲覧室、事務室です(写真1)。2階から出入りし、図書室内の階段を利用して1階の書庫へ出入りします。1階の廊下から直接書庫へは入れませんのでご注意ください。

2階には、閲覧席、利用者用端末、AV資料と機器、新着雑誌のほか、開架書架に比較的利用の多い分野(哲学、歴史、言語、文学)の和書があります。

1階は、全体が集密書庫で、和洋雑誌のバツ

クナンバー、2階配架分以外の分野の和図書、全分野の洋図書、参考図書等を配架しています。

残念ながら、閲覧座席が8席しか確保できませんでした。また、図書室内外のサインが未整備で、校舎内での情言図書室の位置、室内のレイアウト、資料の配架が判りにくく、利用者向けサインの整備がこれからの課題です。



写真1 図書室2階(写真はビデオ、雑誌などの書架)

(いしだ・やすひろ 情報・言語合同図書室)

## 本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成19年7~9月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所属	寄贈者名	寄贈資料名	資料ID	配置場所
保健体育科学センター	佐々木 康	英国ラグビーとクラブ組織 / 佐々木康著 - 創文企画, 2007.7	11586827	中央学 783.48/Sa
文学研究科	和田 壽弘	The Analytical Method of Navya-Nyaya / Toshihiro Wada. - Groningen: Egbert Forsten, 2007 (Gonda Indological studies; v. 14)	41431641	中央図 126.6/W
情報科学研究科	有田 隆也	心はプログラムできるか: 人工生命で探る人類最後の謎 / 有田隆也著 - ソフトバンククリエイティブ, 2007.8 (サイエンス・アイ新書; SIS-031)	11587018	中央学S 007.1/A
名誉教授	永井 義雄	フェミニズムの古典と現代: 甦るウルストンクラフト / アイリーン・ジェインズ・ヨー編; 永井義雄, 梅垣千尋訳 - 現代思潮新社, 2002.2	11387699	中央学 367.1/Y
保健体育科学センター	小川 豊昭	精神分析の四基本概念: 1964 / ジャック・ラカン [述]; ジャック・アラン・ミレール編; 小出浩之 [ほか] 訳 - 岩波書店, 2000.12	11341450	中央学 146.1/L
医学部保健学科	立岡 弓子	周産期ケアマニュアル: 写真とCDでわかる / 立岡弓子監修 - 医学芸術社 (発売), 2007.4	11599199	中央学 492.955/Ta
理学研究科	篠原 久典	ナノカーボンの科学: セレンディピティーから始まった大発見の物語 / 篠原久典著 - 講談社, 2007.8 (ブルーバックス; B-1566)	11599200	中央学S 501.48/Si
法学研究科	渡部 美由紀	民事訴訟法 / 名津井吉裕 [ほか] 著 - 法学書院, 2007.5	11599215	中央学 327.2/N
情報科学研究科	柳 浦 睦 憲	Handbook of approximation algorithms and metaheuristics / edited by Teofilo F. Gonzalez - Boca Raton: Chapman & Hall/CRC Press, 2007 (Chapman & Hall/CRC computer and information science series)	41436091	中央図 007/G
国際開発研究科	浅川 晃 広	近代日本と帰化制度 / 浅川晃広著 - 溪水社, 2007.9	11600709	中央学 329.91/A
国際開発研究科	趙 彦 民	満洲愛国信濃村の生活: 中国残留孤児達の家族史 / 趙彦民著 - 三重大学出版会, 2007.8	11600710	中央学 334.4/Ty



本棚を見たほうが最新の情報が手に入りやすいように感じる。

しかし、図書館の選書基準、図書館でしか手に入らない資料の存在や各種のサービスを知ると、質の高い研究には間違いなく必須の場所に思えてくる。

また、この本は公共の図書館や大学図書館、国立国会図書館など、種々の図書館の特長についても教えてくれる。同志社大学の場合ではあるが、なぜ大学図書館に新刊の小説を置いていないのか、なんていう疑問も解決する。私自身は高校までの学校図書館や市の図書館には馴染みがあったから、それと同じものを大学図書館に求めようとしてかえって取っ付きにくさを感じていたのかもしれない。大学図書館の存在意義、それを知った上で図書館を訪ねると、驚くほど親切に受け入れてくれるように感じるのだ。

そしてまた、文献や情報を探索するためのプロセスも教えてくれる。学術研究に必須の情報検索、適当なところで満足して正確性を欠いたり、研究の質を落とすようなミスは犯せない。そんなときの、図書館を使った資料の集め方や吟味の仕方を丁寧に解説してある。今までなんとなく使ってみたり使い切れなかつたりしてき

た、電子ブックや電子ジャーナル、OPAC、また有益らしいとは知っていても手の出なかった参考図書や"灰色文献"の成り立ちや使い方などなど、著者の図書館員としての経験を交えながらわかりやすく書いてあるのである。まさに目から鱗の情報が満載、自分ではそれなりに使えていると思っていたOPACや、オンラインのデータベースに関しても知らなかったことだらけで、これらのシステムの奥深さを思い知った。

この本、いささか文系学生向きに偏っている感はあるが、図書館利用の初心者には文理問わず非常に役に立つ、かつ読みやすい本である。

著者は前書きでこう述べている。「図書館の怖いところは、利用者の関心やレベルに応じて、その相貌と機能を変えるところにある。このため、自分では十分利用できていると自認していても、知らず知らずのうちに稚拙な利用法で終わっていたりする。自分が成長しないかぎり、相手も変わってはくれないのだ。」 図書館と仲良くなりたい、正確かつ効率よく調べ物をしたい人には自信を持っておすすめしたい。

(よしみず・ひさえ 医学部保健学科3年)

XX

☆ お知らせ 『中央図書館利用案内』(英語版)ができました

『中央図書館利用案内』は今まで日本語版のみでしたが、このたび *Guide to Nagoya University Central Library 2007/2008* として英語版を作成いたしました。

内容は日本語版とほぼ同じもので 38p の小冊子になっています。この冊子は、中央図書館や部局図書室に備えてありますのでご希望の方はご自由にお取りください。

\*利用案内についてのお問合せは、情報サービス課参考調査掛 (内線 3680, sanko @ nul.nagoya-u.ac.jp) まで

◆◆◆◆◆◆◆◆◆ [行事等] < 19. 7. 6 ~ 19. 10. 5 > ◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- ・東海地区大学図書館協議会平成 19 年度総会・研究集会(愛知県立大) <8/1>
- ・歴史地図 GIS 国際研究集会(文系総合館) <8/23-24>
- ・平成 19 年度目録システム地域講習会(国立情報学研究所と共催)(中央図書館) <9/19-21>
- ・「館長と話そう! 2007」(中央図書館) <9/28>
- ・附属図書館 2007 年秋季特別展「「遊心」の祝福-

- 中国文学者・青木正兒の世界- <10/1-19>
- ・医学部医学科基礎医学セミナー・情報検索講義・実習(医学部サテライトラボ) <10/1>

**編集委員会**  
 中井えり子(委員長) 西尾哲也(中) 長野祐子(中)  
 水野牧子(中) 早川沙耶華(文学) 中村啓子(経済)  
 菊池有里子(数理) 加藤淳一(工学)